

倫理斗通信

NO 3
'38
12.31

教育大倫理クラス
斗争委員会 発行

長期にわたる筑波斗争のただ中で、ついに新年を迎え、筑波阻止をめぐる新たな意図を蓄つたところから倫理学クラスの先進的発起者、倫理斗の在京支部はここに若干二の向教しく永劫した当局のゆきを報告し、本年一月からの再度の斗争への宿業を呼びかけたい。

△入試中止をテコとした更なる移転推進策を粉砕せよ！

すでに新聞等で報道されているように、学友当局は27日評議会で文理教の入試中止を決定し、29日の評議会では更に議をも命じた最終的入試中止を決定して文部省へのとりつけを行つていった。我々もこの長期バリエーションドライブによる我々の七項要求、全学斗と大衆闘争について、何らの「放棄」も不さないうき、「全学集会」の「調整案」が破産するや否や、二つした強制的反動の本質を露わにした学友当局に、更なる攻せを用意していかねばならない。

今日のこの入試中止という学友当局の策動は、これまでの、一定の競争と「ボース」をとりつ、「全学集会」なるものをちらつかせていた当局の賣的にある。た更なる高圧的強圧と抱えなければならぬだろう。即ち、入試中止という手段は一見して我々の斗争がもたらした必然的帰結のふうをととりつても、その背後には、休校廃校等の措置までを間意しつ、「6/10決定」を堅持せんとする策動、「社会尙基化」されることにより、「忠告」を利用して我々学生へ圧力をかけんとする策動が、明白に存在しているものとして抱えらるるのである。それ故、坂田文相の東大の「大学院大学」化に關する発言にもみられるように、研究教育の改編、帝国主義的再編の野望を完結せしめる好材料を用意するものであり、教育大において、強制的筑波移転の推進をも図らんとする軍勢かつ苛酷な斗争強圧を意味するのである。

△日共民青の入試実施要求逆効「大学」を粉砕せよ！

さて、現在日共民青は、学友当局の「入試中止

し決定に、斗争強壓である「筑波移転阻止」をかなぐりすて、ひたすら發校精神のみを売りものとした「大学」を粉砕しなる精進之功を期し、斗争など始めなければよかつたしと云わんばかりの石置性である。そもそも彼らの斗争は、強壓阻止してはならぬ、「学国民民主化」にあつたことによりこの東大を發校精神の発揚に必然的と云わざるをえないのだが、二つした立場から決して今回のこの入試中止策動を正しく分析できえないし、これを粉砕して移転阻止を実現することほできないことは明白である。「全学集会開催」→「早期策」→「六項要求」→「大衆闘争」の前に戻するや否や、「六項要求」までをそかちてきて早期収拾を図らんとする彼らの破産的な路線を粉砕することは、我々の移転阻止斗争にとっては何可欠のものである。

△一月斗争の爆発的高揚をもって一切の強圧的策動を粉砕せよ！

我々はこれら二つに對して文部省、大衆当局、日共民青による斗争強圧、収推策動を、大衆的に粉砕し、七項要求を全学斗と大衆闘争にのりかちとつてゆくのでなくにはならない。昨年度、我々全学斗は戦後体制の中を二八、二九、三十日と進断して入試中止策動による斗争強圧粉砕のための集会をもち、更に二九日には、先発部隊による文部省抗議示威をもちとつていった。

我々の斗争に正月はない。倫理学クラスのみならず学友諸君、一月四日全学集会を決定集集せよ！

《スケジュール》

1/4(土) 同盟登校開始
全学集会起集集

7(火) 倫理学クラス討

(一〇〇)